



ストーリー

# 障害者を「支え手に」

## 就労促進へ奔走する70歳

「チャレンジド(障害者)

の雇用・就労促進について、相談に乗ってもらえませんか」。10月4日、一本のメールが、神戸と東京に事務所を置く社会福祉法人「プロップ・ステーション」

理事長、竹中ナミさん(70)の元に届いた。自民党総務会長に就任した加藤勝信・衆院議員からだ。今夏に中央省庁などで障害者の法定雇用率の水増しが判明、制度が揺らいでい

た。渦中に厚生労働相の職を離れ、与党幹部となった加藤氏が、1億総活躍担当相時代から懇意にする竹中さんに助言を求めたのだ。

神戸に暮らす彼女は同日、東京・永田町に飛んできた。「雇用率だけではあかん。チャレンジドが誇りを持てる、多様な働き方のできる制度を新しく生み出さんと」。関西弁で発破をかけると、加藤氏はうなずいた。

情報通信技術(ICT)

を駆使して在宅のままパソコンで働ける環境を整えるなど、障害者の就労を支援してきた。「ギネス級」といわれる強心臓としゃべりが武器。政治家や官僚は「ナミねえ」と呼び、一目置く。

「チャレンジドを納税者に」。それが自らの「ミッション(任務)」と言う。チャレンジドとは米国で使われる言葉で、障害者を「挑戦すべ

き使命を与えられた人」ととらえる。彼らを「福祉の受け手」から「社会の支え手」にしたい。パワーの秘密は、重症心身障害を持つ長女麻紀さん(45)の存在だ。「この子の笑顔が力を与えてくれる」。チャレンジドの「おかん」は、日本の障害者福祉の大転換に挑戦する。

4面につづく

取材・文 桜井由紀治